

(9) 中国



中国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)。

前回からの主要変更点

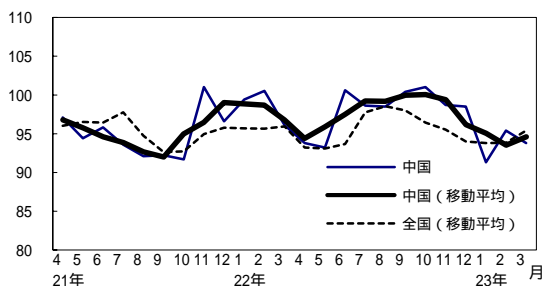
	前回(令和5年3月)	今回(令和5年5月)
景況判断	緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに足踏みがみられる

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

1 - 3月期の鉱工業生産は、前期比 5.9%減となった。月別にみると、1月は化学や汎用・生産用・業務用機械が減少したこと等により前月比 7.3%減、2月は化学や輸送機械が増加したこと等により同 4.5%増、3月は化学や汎用・生産用・業務用機械が減少したこと等により同 1.7%減となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	23.2	2.9	5.0	1.2	7.9	4.2
汎用・生産用・業務用機械	13.3	22.6	23.0	11.2	10.6	3.9
化学	12.2	7.8	6.8	26.3	24.9	14.6
電子部品・デバイス	8.8	2.1	15.2	13.4	5.6	3.3
食料品・たばこ	6.8	2.2	1.9	7.4	11.3	3.9
鉱工業	100.0	0.2	5.9	7.3	4.5	1.7

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1 - 3月期、3月は速報値。

2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1 - 3月期は前期比 1.1%増となった。月別にみると、1月は前月比 0.9%増、2月は同 0.2%増、3月は同 0.4%減となった。

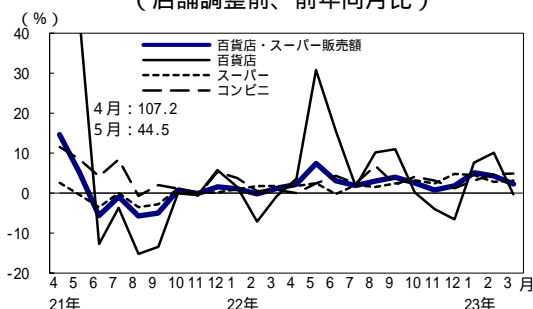
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1 - 3月期は前年同期比 3.9%増となった。月別にみると、1月は前年同月比 5.1%増、2月は同 4.3%増、3月は同 2.3%増となった。

百貨店は、1 - 3月期は前年同期比 5.4%増となった。

スーパーは、1 - 3月期は同 3.5%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)

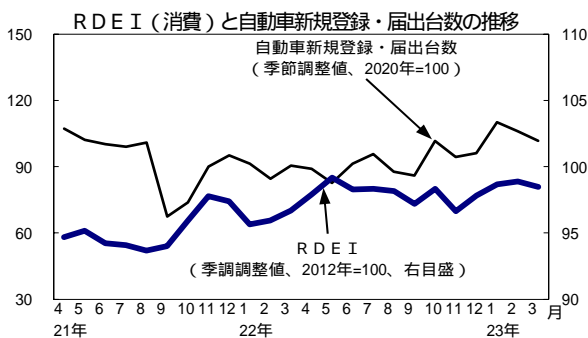


	2023年1-3月	2023年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.1	0.9	0.2	0.4
百貨店・スーパー(*2)	3.9	5.1	4.3	2.3
百貨店(*2)	5.4	7.6	10.1	0.3
スーパー(*2)	3.5	4.5	2.8	3.1
コンビニ(*2)	4.2	3.1	4.7	4.9
乗用車(*3)	19.3	20.8	25.8	13.8
(季節調整値)(*3)	8.9	14.6	3.7	4.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

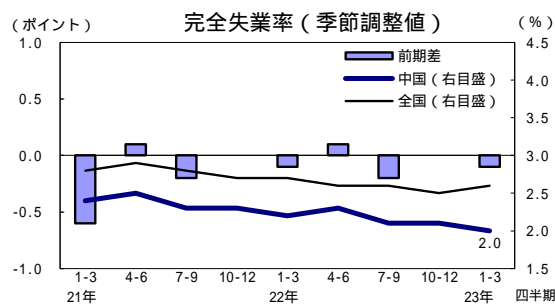
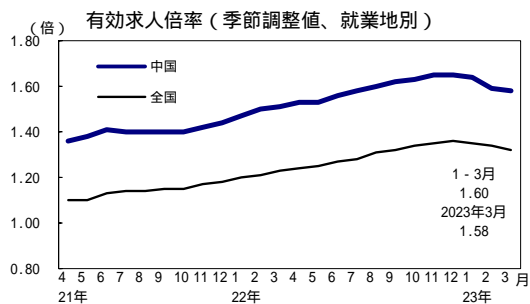
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年4月調査）景気判断理由の概要

9. 中国

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・新型コロナウイルス感染症の影響はなくなりつつあるが、様々な物価の上昇といった不安要素が中間層に影響を与え、景気回復の足かせとなっている（百貨店）。
		○	・インバウンドの利用人数がほぼ2019年並みに回復していることに加えて、国内客の動きも活発な状態を維持している。また、客単価も上昇傾向である（都市型ホテル）。
		▲	・値上げによる1品単価の上昇により、既存店の売上は前年を上回っているが、来客数や1人当たり買上点数は前年割れが続いている（スーパー）。
	企業動向関連	□	・1月以降、生産能力以上の受注に対して、超過勤務で対応している（金属製品製造業）。
		▲	・新年度になって、日用品などあらゆるものが値上がりし、消費者の購買意欲が減退している。新型コロナウイルス感染症に関する規制緩和の影響もあり、観光や飲食は少し持ち直しているようだが、住宅関連はしばらく厳しい状況が続くそうである（木材木製品製造業）。
		○	・新年度を迎え、卒業、入学、転勤など人の動きが活発になり、そうした行事に必要な消費活動が行われている（繊維工業）。
	雇用関連	○	・募集側が提示する年収の範囲と求職者の希望する年収が一致しなかった場合、上限年収を引き上げても内定を出すケースが徐々に増え始めている（民間職業紹介機関）。
		□	・景気の先行きが不透明感なことから、自動車や半導体など一部の業種で、求人を絞る動きがあるものの、全体では人手不足の状況は変わらず、求人数は比較的高い水準で推移している（人材派遣会社）。
		◎ ▲	・新規求人の受理件数は前年比で2.5%減少しており、新型コロナウイルス感染症発生前の3年前と比べても11%以上減少している。産業別にみると、運輸業や宿泊業が前年比20%以上減少している（職業安定所）。
	その他の特徴コメント		
先行き	家計動向関連	□	・新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に引き下げられることで、内食から外食へ流れることが予想されるため、食品スーパーの景気の上昇は、余り期待できない（スーパー）。
		○	・来客数の回復や客単価の上昇で、しばらく好景気が続く。電気料金や人件費の高騰が控えているため、経費については楽観視ができないが、今後も商品価格の上昇による売上の増加が見込める（コンビニ）。
	企業動向関連	□	・大きなプラス要素や各取引先の目立った動きもないため、状況は変わらない（輸送業）。
		○	・今後、客が売上を伸ばす対応や各種イベント等を実施することに伴い、受注量が上向きになる（広告代理店）。
	雇用関連	□	・ゴールデンウィーク明けに第2新卒層に多少動きがあるかもしれないが、これからの季節は転職活動が鈍化する傾向にある（民間職業紹介機関）。
その他の特徴コメント			○：新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に引き下げられるため、今後も来客数の増加傾向が続く。G7広島サミットの開催を控え、外国人観光客が増加傾向にあり、今後も増えるとみられる（一般レストラン）。 ▲：様々な商品の値上がりに賃金の上昇が追いついていないため、今後、景気はやや悪くなる（家電量販店）。

(D I) 現状・先行き判断D I（中国）の推移（季節調整値）

